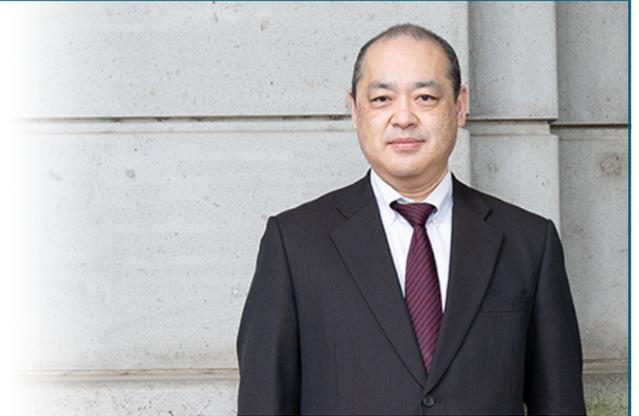


事例紹介


 文部科学省 文部科学省様

霞が関初、フルクラウドで業務・働き方を改革

～1人ひとりが、仕事のしやすさ、
改革の進展を実感できることをめざして～



文部科学省は2022年1月初頭にフルクラウドによる行政情報システムを稼働させました。システム導入にあたって実現したかったことは、文部科学省全体の業務効率化と働き方改革、そして、同時にセキュリティ対策と耐災害性の強化でした。「職員が改革の進展を実感し、仕事がやりやすくなったと評価してくれることこそが目標」という、フルクラウドへの移行までの道のりを紹介します。

フルクラウドによるシステム更改を決断

「新システムは霞が関のなかで最先端と言えます。業務効率化と働き方改革の実現を追求するという本来の更改目的に即したものであり、かつ、セキュリティ対策、長年の懸念であった耐災害性を大幅に強化できました」(坂本氏)

2022年1月4日、文部科学省の行政情報システムはフルクラウドとなった。ファイルサーバー、メッセージング、メールシステムはNTTコムウェアが提案したBox、Slack、Microsoft 365に置き換えられ、一新された。

霞が関と地方拠点を合わせた3,700ユーザーにはタブレットとしても利用できるPC1台とスマートフォン1台が貸与された。

省庁特有の事情で年末年始の実質6日間という短い期間しか業務システムを止めることができないなか、2022年1月4日にサービスインを完了。構築開始から約9か月という短期間での実施だった。

NTTコムウェアは旧システムの導入・保守運用も支援しており、その経験を踏まえ文部科学省が抱えていた課題解決に向けて新システムのフルクラウドへの移行を提案した。



坂本 秀敬氏
文部科学省
大臣官房政策課
サイバーセキュリティ・情報化推進室
室長

1人ひとりが、仕事のしやすさ、
改革の進展を実感できることをめざして



幅広いサイバーセキュリティ・情報化推進室の担当領域

今回のフルクラウドによる更改をリードしたサイバーセキュリティ・情報化推進室は、省の所掌事務に係る**情報化の推進**、省の情報システムに関する**企画立案**、省及び省の関係機関における**情報システム改革及びサイバーセキュリティの確保**、といった業務を担当し、PMOとして省内各局課が取り組む**DXへの支援及び助言**も行っている。

今回フルクラウドで更改された行政情報システムは、省内ネットワーク、職員用端末、クラウドストレージ、業務支援システム・ツール等で構成される文部科学省の基幹システムである。

行政事務の本質は、公文書管理のルールに基づく文書の作成・整理・保存に体现されるが、文書の作成過程における合意形成や意思決定プロセスにおいて行政情報システムが重要な役割を果たし、職員間、省庁間、有識者をはじめとするステークホルダーとの間で行われる**膨大なコミュニケーションを効率化**している。

システムデザインを徹底したエンドユーザー目線で実施

今回のシステム更改は、職員が雑務から解放され、人にしかできない政策の企画立案などの重要な仕事に集中でき、かつ働き方を自由に選択できるようにすることで、**仕事にやり甲斐を感じ幸せになれる環境を実現**していくという大きな目標があった。そのために、業務自動化やリモートワークをはじめ、行政情報システムの全体デザインを熟慮した。

「長時間勤務を抑制し、多様な働き方を支援できるしくみはどんなものがあるのか、それを支えるためのシステムはどのようなものが最適なのか、という議論を若手を中心に重ねていたところにコロナ禍があり、本格的なりモートワークを実体験したことで大きな進展がありました」(坂本氏)

そして、システム部門が陥りがちな、新しく立派なシステムを導入することが目的とならないよう、**システム更改はあくまで手段であって目的ではない**ということを改めて強く意識しつつ、従来とは異なるアプローチでシステムデザインを検討し、業務改善・働き方改革と一体で計画を推し進めた。システム部門の役割は実際のエンドユーザーである職員の意見を丁寧に集め、全体のシステムデザインに活かすことであるとした一方で、**すべての意見を平均的に取り入れても改革につながらない**ため、改革に向けた強い理念を持ちシステム全体を俯瞰して見ることのできる複数のキーマンに取り纏めを任せ、**システムに一本筋の通った一貫性のある思想を持たせる**ように配慮した。

「システム更改の内容が省全体の改革に寄与するか、省改革・コンプライアンス室や省内有志の協力も得て事前に評価してもらいました」(坂本氏)

エンドユーザーの行動や意識の変化が明らかに



2022年1月に導入され約半年が経過したクラウドへの全面移行は順調に進み、若手を中心に明らかに**業務効率のアップや働き方の変化を実感**した、という声が寄せられているという。

Box、Slackなどの新しいクラウドサービスへの習熟度は少々個人差が出たところもあったが、業務への適用効果はすぐに現れた。

「省庁の仕事には省内だけでなく外部の有識者や他の省庁のメンバーとの意見の集約、意思確認の作業が非常に多くあります。Slackの導入によって、かかる時間と労力が大幅に削減され、業務を担当する20～30代の若手中堅職員からは高く評価されています。

また、同様に数多くの書類・資料の確認・修正の作業があり、こちらはBoxの共同編集機能が功を奏し、修正履歴等の証跡管理の強化とともに、作業の時間短縮、労力軽減につながり、評価が高くなっています」(坂本氏)

中間管理職世代は元々メールを使用する文化に慣れているため、当初はSlackをうまく使いこなせない人も散見されたが、「SlackやBoxを使うことで若手の仕事がより速く、より効率的になっているのならば、中間管理職ももっと積極的に活用していくべき」という幹部からの発言もあり、ツールが浸透する原動力になっているという。

フルクラウドになったことで変わる運用と役割

フルクラウドになったことで、旧システムと大きく異なることの1つは、クラウドサービス側で次々と新しい機能が追加されることである。それらが省庁全体の働き方改革や業務改善につながるという検証が済めば順次、職員が利用できるようにすることでシステム全体が年々より進化する可能性があり、従来にはなかった価値になる。

NTTコムウェアは、NTTグループや一般市場のお客さまの大規模システムを開発、運用してきた技術力と実績を有している。そして、そこから得られた知見・ノウハウをもとに新システムの提案を行っている。クラウドには先進的なサービスが多く、複数のサービスを組み合わせるときに問題が発生することがあるが、IT業界としてもノウハウはまだまだ少ない。クラウドサービス間の仲介やトラブルシューティングにおいて、未知の課題や問題に挑戦・解決し続けて来たNTTコムウェアの持つ総合的なサービス提供力が発揮されている。

「今後システムを運用していく中で、NTTコムウェアにはオーケストラの指揮者の役割を期待しています。個々の奏者であるクラウドサービスが各々素晴らしくても、それぞれの良さを引き出し、1つの演奏としてまとめるには指揮者の力量が必要です。各種のクラウドサービスがより良く組み合わせさせて、うまく活用できるようになるための、新しい形の細やかなサポートを期待しています」(坂本氏)

エンドユーザーが改革の進捗を実感してくれていることが大切

今回の文部科学省の「行政情報システム」の更改は、外部からの評価も高い。

2022年5月末には、霞が関の改革とその知見をシェアするイベント『第1回・意外と変われる霞が関大賞』に文部科学省職員有志によって新システムの移行を含む取り組みがエントリーされ、「意外と変われ『て』る!ボトムアップで切り拓く文部科学省改革」として大賞を受賞している。

PROJECT MIIIK

開催日時
2022.5.29 (日) 13:00~15:10

審査員紹介

官僚有志によるピッチイベント開催!
“意外と変われる”
霞が関 大賞

もっと繋め合おう、勇気を持とう、そして変えよう
改革の知見をシェアし、マウンティングせず高め合い互いから学ぶ、改革者の誇りと勇気を伝播させていく、それが新たな改革を生み、霞が関全体、さらには日本全体が変わっていく、そんな流れを創りたいと

参加者の皆さま...
「あなたの「改革ナレッジ」を霞が関へ」

登壇者(官僚有志)の皆さま
「各官庁の、働き方や組織改革の取り組み事例を教えてください。」

MC
川本裕子氏

「今回の受賞で大切なのは、システムを導入した私たちの部署ではなく、現場で改革をリードし、意見を発信しながら活用している有志が自ら応募して大賞を受けたことです。エンドユーザーが新システムによって改革が進んでいると実感し評価してくれていることをとてもうれしく思っています」(坂本氏)

事例紹介 文部科学省様

NTTコムウェアは、これからも確かな技術力と豊富な経験に裏打ちされたトータルサポート力で、お客さまのDX実現を支えていく。



担当者の声

今回の行政情報システム更改は、フルクラウド化するという中央省庁初の試みであると共に、これだけ大規模かつ短時間でのクラウドサービスへの一斉切替はIT業界でも稀だと考えています。IT業界における世界遺産のような金字塔となるシステムに関われたこと、この上なく誇らしく思います。

貴重なご提案の機会を頂いた上にNTTコムウェアを選定して下さったこと、そして多大なるご尽力・ご協力を頂きながら無事サービスインを迎えられましたこと、文部科学省様には改めて深く感謝致します。保守運用はまだまだ続きますが、文部科学省様に本システムをご活用頂くことで、日本の教育・科学・文化・スポーツといった分野の発展に寄与出来るように、NTTコムウェアはこれからも日々精進して参ります。



NTTコムウェア株式会社
ネットワーククラウド事業本部 担当課長
岡本 稔

お客さまプロフィール



名称	: 文部科学省
概要	: 教育、科学技術、学術、スポーツ、文化の振興を所管する中央省庁
所在地	: 〒100-8959 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号
公式サイト	: https://www.mext.go.jp/

※ 商品およびサービスの内容は、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※ 記載されている社名、商品名などは、各社の商標または登録商標である場合があります。

※ 所属部署、役職等については、取材当時のものです。